



日本聖公会
大阪教区教務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
教務局長 司祭 原田光雄

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 office.osaka@nsk.org

第416号 2010年12月12日発行

「光は暗闇の中で輝いている。暗闇は光を理解しなかった。」(ヨハネ1:5) このように聖ヨハネはイエス・キリストの誕生を記しています。

暗闇の中で生きる人に光が輝いているのに、その光に気づかない人がいるのでしょうか。きつと気づくには違いありません。しかし、気づいたからといって、その光がどのような意味をもつて輝いているのかを、理解できるとは限りません。理解するためには光に目を向け、光に向かって自ら歩み始めるこ



クリスマスの光と闇

主教 サムエル 大西 修

とが必要です。そこに何かが示されるのです。光に向かっての歩みこそ、信仰の第1歩に他なりません。

今夏発生したチリの鉱山落盤事故のため、地下700mに閉じ込められ、10月末69日ぶりに救出された33人のうちには、これに類する光を理解しようとする思いと希望が、暗闇の中にあっ

ても常にあったことが救出につなげたことではないでしょうか。



聖ヨハネによる

福音書では、光は言うまでもなく、イエス・キリストを指し示しています。世に来てすべての人を照らす、まことの光としてのイエス・キリストです。その光とは、一体どんな光なのでしょう。人生の暗闇の中で生きる人、その暗闇からの解放と喜びと生きる意味とをもちたらず光です。

東方の占星術の学者たちや羊の群れの番をしていた羊飼いたちは、まことの光としてのイエス・キリストを探し求め、出会うことを通して、暗闇と思

われた彼ら各々の生活の場にあつて、喜びと生きる意味と希望を見出すことができたのです。

東方の占星術の学者たちは、星の導きによってベツレヘムへと導かれ、イエス・キリストがお生まれになった場所の上に止まったその星を見て喜びにあふれ、家の中に入って幼子を拝み、贈り物を献げたと記されています。(マタイ2:9以下)

また、野原で野宿しながら夜通し、羊の群れの番をしていた羊飼いたちに

は主の天使が現れ、主の栄光が周りを照らし、恐れおののく彼らに、救い主イエス・キリストのベツレヘムでの誕生という、大きな喜びのメッセージが伝えられました。羊飼いたちは急いでベツレヘムへ出かけ、幼子に出会った後、神をあがめ、賛美しながら帰って行きました。(ルカ2:8以下)

クリスマスの出来事は、人々から蔑まれ、差別され、辛く、苦しく、貧しい羊飼いたちの現実を打ち破る光の到来、イエス・キリストの誕生を語り伝えていきます。救いからは程遠いと思われていた異邦人(すべての人々)にも、希望の光が照り輝き、新たに生きる力が与えら

れたのです。

今日私たちの周辺にあるクリスマスは、この世の闇の中で光り輝いているクリスマスでしょうか。人々の心の闇(戦争、人間不信、貧困、飢え、失業、病気、災害等々)を照らす光であるイエス・キリストを、お迎えするために出て行くクリスマスでしょうか。

イエス・キリスト(光)の到来の意味を、喜びをもって人々に伝える今年のクリスマスでありたいと思います。メリー・クリスマス!!





104(定期)教区会 開会演説

この難局を支えあつて乗り越えよう

主教 サムエル 大西 修

今年も本教区会のために、お集まりくださった信徒代表員、教役者議員の皆様にご心より感謝いたします。また、本教区会の諸準備をしてくださった書記局と川口基督教会の皆様にも厚くお礼申し上げます。

この1年間の大阪教区の全体的な活動報告を伺い、それらを振り返りつつ検証し、さらなる前進発展のために、有意義な議案審議が進められ、大切な決議がなされるようにと願っています。

さて、昨年は日本聖公会宣教150周年を迎え、皆で共に祝いました。そして11教区が、それぞれ新たな決意のもとに宣教の海原へとこぎ出しました。

世界の全聖公会（アングリカン・コミュニオン）はこれまで多様性の中にある一致を大切にしてくださいましたが、残念ながら、過去10数年は、一致を困難にし、分裂の危機をもたらすような混乱の状況が続いています。特に、「人間の性（ヒュー

どのようにとらえていくかが、今、問われています。

日本聖公会では、2012年の宣教協議会開催に先立ち、その準備のためのプレ宣教協議会が8月箱根で開催されました。日本聖公会の現状と課題を分かち合い、これからの宣教に関する方針と方向性を具体的に築き上げる目的をもつて、各教区・教会も今後その準備をしていくことが確認された協議会でした。

現在、どこの教区・教会の現状を見ても、明るい話題は多くありません。当教区・教会においても、そうかも知れません。信徒数の減少、少子高齢化、聖職者不足、教会・牧師館の建物の老朽化、財政の逼迫などが目に見える身近な課題ですが、その解決への突破口はまだ見えてきません。けれども、主イエス・キリストの十字架の愛と復活の命に生かされ、どのような困難な状況下にあっても、希望を失わない喜びのうちにある信仰共同体が私たちの教会です。振り返ってみますと、教会はいつの時代も、困難な課題

を担い、その一つ一つを克服しながら歩んで来ましたが、これからも歩んで行く使命を負っていると思います。

また、大変厳しい今日の日本の社会状況に、教会はしっかりと目を向け、具体的な宣教をしていく必要があります。長期にわたる経済的不況による貧困、失業、家庭崩壊など、また社会的弱者である高齢者、幼児、障がい者などへの関わりが教会の大切な宣教課題として挙げられます。

世界の正義と平和に向けての教会の関わりが、今日重要な意味をもっています。核を廃絶し、戦争のない平和な世界の実現に向けて、生命の尊重を叫び、人権を尊び、あらゆる国の人々、諸宗教の人々と連帯していくことも重要です。開会聖餐式において、エルサレム・中東聖公会エルサレム教区スヘル・ダワーニ主教の説教を読んでいたおりましたが、パレスチナの地における平和のため、奔走しておられる同主教の働きに連帯し、近くは東アジアの国々との和解と平和のためにも教会ができることを考え、行動し

ていきましよう。

さて、大阪教区はこの1年間、数々の活動をしてきました。3月の臨時教区会後にはハラスメントについての学びの時を持ちました。本教区会にはそれに関する議案が提出されていますのでよろしくご審議ください。「教会奉仕者のための学び」が4月から毎月1回、第4土曜日の午後、ウイリアムス神学館との協働のもとに始まり、来年3月まで礼拝学入門、教会問答入門の2科目を約30人が受講中です。この学びが今後の教会奉仕者の働きに役立ち、生かされることを期待しています。

教区間協働につきましては、日本聖公会の全教区で取り組みがなされています。大阪教区と京都教区との教区間協働は、近い将来の合併をも視野に入れつつ、より積極的に進めてまいりたいと思います。4月から教役者の「1日人事交流」が始まりましたが、両教区の教役者が主日に行き来し、目に見える形で交流することを通して、教区間の垣根

を越え、壁を少しでも低くできればと願っています。今後教区・教役者レベルにとどまらず、教会・信徒レベルでの両教区の交流が一層豊かになるよう考えてまいります。

姉妹教区関係にある台湾聖公会との交流は2期目2年目を迎えています。4月、石橋聖トマス教会が台湾の旅を企画、台湾交流委員会がこれを後援し、参加者18人で行われ、良き交わりがなされました。10月には台湾聖公会から幼稚園関係者16人が来阪し、教区内の幼稚園、保育園、児童養護施設などを見学し、親しい交わりと学びの5日間を過ごされました。来年2月末には西宮聖ペテロ教会が嘉義市にある聖彼得得堂(聖ペテロ教会)を訪問する予定です。

聖公会生野センターの働きを、教区内諸教会に、より一層ご理解いただくため、総主事が各教会を訪問し、PRさせていただく計画を現在実行中です。

聖ヨハネ学園創立120周年記念礼拝(11/21)、西宮聖ペテロ教会パイプオルガン祝福式(12/13)、博愛社創

立120周年記念礼拝(3/27)、愛光幼稚園の学校法人認可(4/1)、守口復活教会オルガン祝福式(4/4)、下田部保育園新園舎落成式(9/18)、三光塾竣工式(9/20)、川口基督教会創立140周年記念礼拝など喜ばしい出来事も多くありました。今年から教区創立記念日特祷を作成し、6月5日に近い主日に用いることを始めました。来年からは教区内の代祷表を作り、毎日、教会・関係諸施設を覚えて祈ることができるようになりたいと準備中です。

人事に関しては大西修主教が2009年10月1日から2010年2月11日まで中部教区管理主教、4月1日から桃山学院学院長、6月25日から聖バルナバ病院理事長に就任いたしました。

林正樹聖職候補生は、4月1日から大阪聖パウロ教会勤務といたしました。その他の人事につきましては常置委員会報告をご覧ください。長きにわたり教区の働きにご尽力くださった成田邦雄、

福田光宏、奥康功、山野上素充の4司祭は来年3月31日をもって定年退職を迎えられます。これまでの働きに対して深甚なる感謝の意を表したいと存じます。引き続き4月からは囑託としてお働きいただく予定であります。

一方、来春3月、千松清美、奥村貴充、古澤秀利の3聖職候補生が神学校の学びを終え、4月からは新任地での勤務が始まる予定です。

また新たに、義平雅夫兄(守口復活教会信徒)が聖職候補生志願者に認可され、神学校での学びに入る予定であります。

昨年12月4日、81歳で逝去された山本登司祭(退職)の、霊魂の主のもとにおける安息をお祈りいたします。

最後に2009年度の教区の教勢について簡単に触れたいと思います。

() は2008年度

現在信徒数 3,267 (3,280)

現在受聖餐者数 1,873 (1,913)

不陪餐者 494 (475)

主日礼拝出席者数 939 (931) (現在信徒数の28%)

主日礼拝陪餐者数 789 (778) (現在受聖餐者数の42%)

堅信式受領者数 28 (33)

聖洗式受領者数 39 (42)

逝去者数 39 (49)

この統計を見て、来年度の努力目標を掲げるとすれば、現在受聖餐者数を2,000、主日礼拝出席者数を1,000、主日礼拝陪餐者数を800に、そして聖洗式受領者数が逝去者数を上回るようになることとあります。

来々には4月からの人事について公示する予定であります。

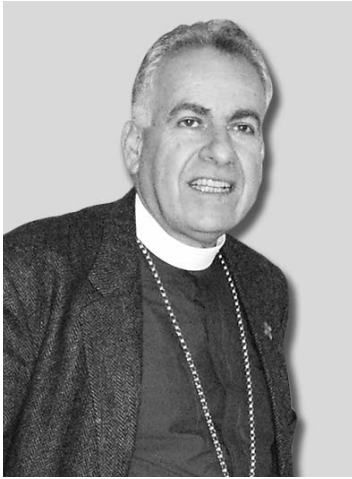
教役者数(現職)は現在、主教1、司祭16、執事2、聖職候補生1の合計20名ですが、2011年4月からは主教1、司祭12、執事2、聖職候補生4の合計19名となります。現職聖職が15人態勢になりますので、人事に苦慮することになります。信徒の皆様と共にこの難局を支え合い、乗り越えて進んでまいりたいと思っております。よろしくお願いたします。

教区会 開会聖餐式 説教

エルサレムの平和は、世界の平和につながる

ダワーニ主教の説教

スヘイル・ダワーニ主教は、1951年、パレスチナ西岸地区ナブルスに生まれる。2007年2月よりエルサレム・中東聖公会エルサレム教区主教。イスラーム・ユダヤ教・キリスト教諸教派間の対話を試み、正義に基づく平和の構築に尽力しておられる。今回東京教区下町教会グループ協議会・エルサレム教区協働委員会の招きで来日された。11月23日(火)大阪教区教区会開会聖餐式での説教をお願いしていたが、体調を崩され、岩城聰司祭が説教を代読した。午後には回復され、聖贖主教会で予定されていた講演会で、講演をしてくださった。



棕櫚しほろの日曜日は、キリスト えられる方に祝福あれ、という教の祝日です。多くの教会で、声を上げて、行列がおこなわれ、主の御名によって来 れます。子供たちや家族が棕櫚の枝を振り、大きなよろこびに満たされて教会や近隣を進みます。

聖なる都エルサレムでは、毎年、棕櫚の日曜日になると、数千人が集まってベトファゲからバタニア、そしてオリブ

山の頂上、険しい丘を降って聖ステファノの門までの行進が行われます。歌い踊り、ホサナを叫び、棕櫚とオリブの枝を振りながら、全世界からの数千もの巡礼者たちが主イエスのエルサレム入城の物語を再現します。しかし、この祭りのときには、何かがかかっています。欠けているのは、全世界からの巡礼者はいのに、地元のアラブ人クリスチャンがいけないということです。地元のクリスチャンが非常に少ないのは、2つの理由があります。

1つの理由は、分離壁によって、バタニアの住民とヨルダン西岸地区の他の地域の住民とが遮断され、クリスチャンがこの行進に参加するには検問所で許可を得なければならぬからです。2番目の理由は、エルサレムに残っているクリスチャンの数がどんどん減っているということです。

1947年には人口の27%であったクリスチャンは、今では2%以下になっています。イエス様が生き、人々に教え、癒し、死に、復活されたまぎにその土地で、クリスチャンの存在がなくなってきたのです。

最初の棕櫚の日曜日は、主が平和と赦しと愛のメッセーヂをエルサレムの住民に届けるためにエルサレムに入城しようとしたときにそれを祝うために起こりました。本当に多くの人々が、イエスさまの入城を興奮して迎えました。大声で叫び、歌い、踊り、棕櫚の枝を振り、上着を道に投げかけました。主イエス・キリストをたたえるためです。

みんなの感情はとても高ぶりました。イエスさまはオリブ山に上られると、エルサレムをご覧になりました。緑の葉をつけたオリブの木に囲まれた美しい町でした。そして木々の真ん中には、石灰石の壁で囲まれた町、その中央には輝くばかりの神殿がありました。また、神殿の側には、偉容を誇るローマの砦、「アントニアの要塞」がありました。

た。

神の神殿とローマ帝国の要塞が並んで、ともにオリブに囲まれている様子は、主イエスが子ロバに乗って、険しい丘を降るとき、強い印象を与えたことでしょう。その光景を目にして、イエスさまは涙を流されました。イエスさまが泣かれたのは、日の光に輝くその町が美しかったからではありません。そうではなく、神の道がねじ曲げられ、神殿がもはや平和の場所ではなく、争いの場所になっていったからです。また、ローマが力によってこの地域に押しつけたローマの平和が、ただ名ばかりの平和だったからです。

信仰も政治も、人知を越える神の平和をもたらさずしてはなりません。霊的な権力とこの世の権力が、共謀して、強制と恐怖を用いて人々の心を支配しようとしていました。この光景は、何と心を揺り動かすものだったことでしょうか。イエスさまが丘を降りてこられるときに目の前に現れたのは、オリブの木に囲まれた霊的な権力とこの世の権力のシンボル、破綻したシンボル

でした。そしてオリブの木には、平和のシンボルであるオリブの枝がいつぱいに茂っていました。イエスさまが涙を流されたのは当然です。主イエスが霊的・世俗的権威の乱用によって欺かれていた人々のことを考え、頬に涙を流された様子は、想像に難くありません。きつとイエスさまは、世界の模範として神の平和に献げられた町について、イザヤの心に浮かんだビジョンを思い浮かべておられたのでしょうか。

「主の教えはシオンから／御言葉はエルサレムから出る。主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かつて剣を上げず／もはや戦うことを学ばない。」（イザヤ書2・3―4）

イエスさまが涙を流されたのは当然です。イザヤのビジョン以降の歴史は、何世紀にもわたって戦うことが学ばれてきたことを示しています。エルサレムの町には血が流され、政治的におり立てられた暴力がエルサレム周辺で今

に至るまで続いています。イザヤのビジョンにもかかわらず、イエスさまがこの聖なる町を見て流された涙にもかかわらず、信仰深い人々が何世紀にもわたってこの聖なる場所で祈り続けたその祈りにもかかわらず、エルサレムは未だに、イザヤが幻に見、イエスさまが説教し、宣言しにこられた平和を経験してはいないので。今日オリブ山に立ち、エルサレムを見渡すと、だれもが涙を流すことでしょうか。希望はあまりにも高く、現実はまだにも絶望的だからです。エルサレムの町はまことに美しく、それが抱えている多くの課題はそれほど美しいものではありません。5つの民族が暮らすこの地域で、私たちの教区が行っているキリスト教の働きに対する課題は今なお続いています。和平のプロセスが滞っていることに対するイスラム教徒、キリスト教徒、ユダヤ教徒の間で増大しているフラストレーションから、過激主義が台頭しています。地元のリスチャンは、よりよい機会を見つけられる他の場所に移

住しようとしており、そのために、聖地でのクリスマスチャン人口が減少しています。クリスマスチャンが故郷を離れるに従って、その賜物も、献身も、未来への創造性への参加も失われています。一部の予測によれば、みなさんが20年後にエルサレムを訪問するときは、皆さんを迎える地元のリスチャンは一人もいなくなる言われています。この課題は、理論上のものではなく、現実的であり、エルサレム教区にある27の教会と30以上の教育・医療施設がその働きを続ける能力にとつて、大きな妨げとなつていす。イエスは涙を流されました。そして私たちもまた、救い主イエス・キリストとともに涙を流して、絶望的な時を生きています。これが現実なのです。しかし同時に、私たちがキリストの愛によつて困難を乗り越えるクリスマスチャンであるということも真理です。エルサレムは復活の場所であり、死が打ち破られ、信じるすべての人々に永遠の命が与えられた場所でもあります。私たちは、聞く耳を持たない

人々の間で生き、平和と和解を告げ知らせています。いつの日か、彼らも私たちと共に、戦うことを学ばないであろうという希望を常にもっているからです。キリスト教徒、ユダヤ教徒、イスラム教徒の間で、信仰に生きる人々は、聖なる一人の方の土地で生き、祈り、働いています。そして、反対のことを示す現実にもかかわらず、神を愛する者にとつてはすべてが可能であると信じ続けています。

人々の間で生き、平和と和解を告げ知らせています。いつの日か、彼らも私たちと共に、戦うことを学ばないであろうという希望を常にもっているからです。キリスト教徒、ユダヤ教徒、イスラム教徒の間で、信仰に生きる人々は、聖なる一人の方の土地で生き、祈り、働いています。そして、反対のことを示す現実にもかかわらず、神を愛する者にとつてはすべてが可能であると信じ続けています。

エルサレムにおいて平和が可能であるなら、すべての人々にとつて平和が可能であるからです。私たちは、すべての障害にもかかわらず、平和のオリブの枝を差し出します。私たちは神に対する愛と、隣人に対する愛を生き抜きます。私たちは、私たちの学校で大多数がイスラム教徒である生徒たちを教え、宗教や年齢や性別、国籍に関わりなく、私たちの病院で病人と死に行く人々をケアしています。私たちは、プライドからこのことを行っているのではなく、それが主が私たちに与えられたミニストリー

（務め）であるからです。エルサレムはイエスさまが涙を流されたのと同じ町であり、復活と、受難の金曜日、そしてイースターが宣言されたのと同じ町です。私たちは希望の民であり、その希望を生かしてくれるための皆さんの関わりは、イエスさまが棕櫚の日曜日にオリブ山を降られるときに涙を流された時と同じように、大切なことです。皆さんの働きに神の祝福がありますように。私たちも皆さんと皆さんの働きに対して祈りますから、みなさんも私と私の教区のリスチャンのために祈りくださることを希望します。



エルサレムの「嘆きの壁」

1920年、大阪府下に今も唯一村名の残る千早赤阪村に生る。小学校卒業し、町の女学校へ往復12キロの山坂道を5年間通学す。



主と共にあゆむ 11

守られて

大田みさを

1938年、東京へ羽仁も

と子創立の自由学園高等部へ

入学、初めて聖書を手にした。

大阪友の会に入会す。12月8

小学校2年生の時
日中戦争始まり、
大人になる迄戦時
中。

1941年、自
由学園卒業。羽仁
もと子創刊「婦人
の友」愛読者の会

日第2次世界大戦に突入、親戚や同窓の男子に次々召集令や戦死の公報がとどき、農村漁村は女性の手に。友の会青年班では農繁期託児所などへ。やがて工場も男子不足で挺身隊として女工で働く。私は旋盤工だった。軍需工場なので日夜空襲され防空壕へ逃げ込む。同僚で爆死者も。



覚えて祈る

今年もクリスマスカードや年賀状を準備する季節を迎えました。昨今では、素晴らしいソフトがあり、それを簡単に印刷して送ることもできますし、宛名書きについても同様です。でもそれだけではちよつと物足りなく寂しい気がします。

跡で、「あつ、これはだれだれさんからのものだ」と、その人を思い浮かべることもしいものです。

信頼関係のうちにあるはずの家族の間で、職場、学校、友人、知人の間で、そして教会の交わりの中にあつても、「相手に思いが届かない、伝わらない、気持ちが通じない、相手が何を考えているのか分からない」といった不満や愚痴を、残念ながら折に触れて耳にします。

教会内ではそれぞれ異なった状況にある信徒のため、また、その折々に即した祈りなどがささげられます。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」とテサロニケの教会に宛てた、パウロの祈りを込めた直筆の手紙が、どのように信徒の心に響いたことであろうかと想像しています。

迎えました。昨今では、素晴らしいソフトがあり、それを簡単に印刷して送ることもできますし、宛名書きについても同様です。でもそれだけではちよつと物足りなく寂しい気がします。

昨年からは、聖公会生野センター活動の後援者へのクリスマスカードに、一筆だけですがメッセージを書くことを始めました。センター活動を支えてくださっている人たちを覚え、感謝の思いをほんの少しでも表すことができればとのささやかな思いからです。

覚えて祈ることを、もつともつと日常的に大切にすることによって、そのような危機から抜け出すことができるのではないかと思います。

直接会えなくても、あるいは心が離れていると感じる時であっても、覚えて祈ることの大切さを忘れないようにしたいものです。(主教サムエル大西 修)

生きていけばよいのか?と考えた時、そうだと身体は両親からもらったもの、生命は神様から頂いたのだ、其所から再出発しようという勇気づき、古里で荒地を耕し農業を。道端の雑草もバッタや蛙も食べた。

(次頁最下段につづく)



京都教区との協働を目指して 聖職と教会紹介 ②



司祭 ヨハネ 井田 泉
(京都聖三一教会)

皆さん、こんにちは。京都聖三一教会の牧師をしており、ます井田と申します。

今から約40年前、当時大阪市天王寺区にあった大阪外国語大学(朝鮮語学科)に大津の自宅から通っていたこともあって、大阪には親しみを持っていました。

1977年に聖公会神学院を卒業した後、下鴨基督教會、立教大学(文学部キリスト教学科助手)、聖公会神学院、大津聖マリア教会、京都復活教会を経て、2006年から現在の務めに着いています。

1985年からだったと思いますが、管区の日韓協働委員を発足の時から長く務めておりました。韓国の教会との交わりが自分の形成に大きな位置を占めてきたと思います。

現在も『日韓キリスト教関係史資料』第3巻の編集に関わって四苦八苦しています。

最近ではライアーという20世紀前半に始まった豎琴のアンサンブルに加わり、その中で笛を吹いています。このアンサンブルの中で聖書の話をしたり、祈ることもあり、わたしにとっては本業につながるものになっています

話が前後しましたが、京都聖三一教会は礼拝のために集まる信仰共同体です。当然のことかもしれないのですが、主日ごとに「ほんとうに礼拝している」という充実感があるのはうれしいことです。祈りの深まり、信仰の成長、教会の成長が願いです。1898年に始まった教会は今年で創立112年、この秋には京

都市中京区の現在地移転・礼拝堂聖別80周年を迎えます。最近まで京都聖ステパノ教会を管理していたので、私が留守にする主日、月1回は信徒による「み言葉の礼拝」をささげてきました。信徒だけでバイブル・シェアリングをする経験も重ねています。ま



司祭 ミカエル 藤原健久
(京都聖マリア教会)

1968年8月9日生まれ。家族は妻と子供3人。映像文化に関心があり、元々「撮オタク」なのですが、最近「アニメ・コミックマニア」も入ってしまい、先日、教会に来ていた高校生に引かれてしまいました。

私の勤務する京都聖マリア教会は、1904年設立。平安神宮の裏、京都大学の近くにあり、レンガ作りの素敵な礼拝堂だったので、老朽化のため2000年に、

たこれは牧師主導ですが、原則月に1回、新約聖書を1書ずつ読み進む聖書の会を続けてきて、この9月でヨハネの黙示録に達し、完了しました。牧師館は聖三一幼稚園の園舎の2階にあります。園長兼チャプレンとして週1回、子どもたちの礼拝でお話をするのを楽しみにしています。(いだ いずみ)

新しく、けれども前の礼拝堂の雰囲気を残して建て替えました。現在受聖餐者約150人、主日の礼拝出席者数約50〜60人。かつて、日本で最も古いパイプオルガンが設置されていたためか、音楽の好きな方がたくさんおられます。聖マリア幼稚園とボーイスカウト京都第24団が併設され、両者とも活発に活動しています。(ふじわら たけひさ)

(前頁よりつづく)

1945年、原爆広島、長崎へ。8月15日終戦。秋に夫は帰国。次の年夫の両親一族外地より引揚げて来て我家は16人の大家族。借り住いの2階を台風の目が吹きぬけた事もあり、生きているのが不思議。衣食住に事欠く苦しい10年間。やがて夫々独立し、姑をはじめ私達5人が金融公庫で建った我家に移り住み夢のようだった。絵描きだった夫は前後7年間の戦場体験を絵にし、人と人が殺しあう戦争を決してはならないと世に訴えつづけた。憲法9条を守りたい。

1987年、乳がん手術。夫も私も九死に一生の目に幾度も会い乍ら守られて生きのびた。

1989年、夫死去。今の私は教会友の会絵の友其の他多くの良き友に恵まれて友情は無形の資産だと思ふ。目も耳もうとくなつたが『守られて』何の思いわずらう事もなく全てを天にゆだねて、2010年、感謝の日々、満90歳。(おおたみさを 堺聖テモテ 教会)

会人婦区教
秋の修養会

宮崎道&ELPISと共に
「聖歌を100倍楽しむ!!」

エリザベツ 奥田佳永子

今年の秋の修養会は第1部「礼拝」、第2部「宮崎道&ELPISコンサート」として、10月11日(体育の日)に、川口基督教会において開催されました。

宮崎道兄は、立教諸聖徒礼拝堂の信徒で、現在の聖歌集の中に作曲したものが8曲入っています。ELPISとは、ギリシャ語で「希望」を意味します。メンバーは、キーボード 宮崎道、オーボエ 堀江和夫、フルート 河合沙樹、ボーカル 黒澤紀子、テクニ



カルサポータ 戸川光の方々でした。

「やけくそ聖歌作家」と称される宮崎兄は、最初は緊張して何を話したら良いのかとシャイな面を見せられていましたが、次第に滑らかな口調で作曲した時のエピソードを語ってくださいました。影響を受けた作曲家のこと、新しい聖歌として自分のセンスを入れて作った「こころのとびらを」(374番)、挫折した時に作った「きよき朝に」(186番)、青年の集いのテーマソング「わかちあえる」(576番)、「あの時のように」(172番)は現場のムードを求めたもの、アンセムとして「主を求めよ」(412番)を作曲したことなどです。

2006年聖歌集の改訂があり、その中に採用された聖歌には複数のスタイルがあり、求められるものを作っていく

て、そのようになったそうです。

「聖歌を100倍楽しむ!!」での演奏と歌は、思いっきり楽しくアレンジされていました。プログラムの順に演奏され、1曲ごとにその曲についてのコメントが入り、特に作曲者鳥井仁呈とは、宮崎3兄弟の合作で、トリニテイ(三位一体)からの命名と知

り、より興味深くなりました。演奏はかなりポップ調にアレンジされ、手拍子も入ったものがあつたのですが、軽くなり過ぎなかつたのは、ボーカルの黒澤姉の美しく神々しい声に拠るものと思われました。演奏時間は瞬く間に過ぎ、アンコールの後、今の聖歌集には入っていない「たてよいざたて」を声高々に皆で合唱し

た時は、最高の盛り上がりとなりました。この曲を愛唱歌とする方も多く、歌い継がれるべき聖歌と感じました。出席者は212人あり、席上献金は183,000円ありました。募金箱には42,574円入っていました。すばらしい1日に感謝です。(おくだ けいこ 大阪聖アソシエーション)

教区礼拝・音楽委主催

「聖布ししゅう会」が毎月奉仕

ヘレナ 斎藤みち

聖布ししゅう会は、大阪教区礼拝・音楽委員会の主催で7月から始まりました。大阪教区の働きとして毎月第3火曜日に、教区事務所にて行わ

れています。大阪教区内の各教会より(10月は、12教会から18人の出席)集まり、聖布類の刺繍・縫製を行っていただきます。ピユリファイターから始まり、それぞれの教会に必要なものを作っています。教会刺繍は、一般の刺繍とは異なり、オルター(祭壇・聖卓)の奉仕の一つとして、祈りをもつてなされ、

さまざまな伝統を分かち合い、交わりを通して、私たちが神さまへの思いを深められるよう祈ります。一人ひとりの小さな働きが神さまのために献げられ、共に支え合う奉仕が教会の働きへ、そして教区の働きへとつながっていくことを信じています。どなたでも、いつからでも始められます、ぜひお越しください。(さいとう みち 聖トマス教会)



思いもよらない体験

〜GFS 夏の報告番外編

エリサベツ 伊藤 範子

今夏、沖縄で開催されたGFSリーダー研修会に大阪からは、残念ながら一人も参加できませんでした。思いもよらない貴重な体験を報告させて頂きます。

今年6月に米国GFSから、突然東京のGFS本部にメールがありました。その内容と言うのは、「8月に大阪万博公園にある国立民族博物館で、米国GFSがある発表をする。しかし、自分たちは出席できないので、代わりに日本のGFSに行ってもらいたい。何もしなくていい。ただ出席するだけでいい。地元の大阪教区よろしく」というもので、さっぱり要を得ない依頼なのです。一体何の集まりで、何の発表なのか。ただ出席するだけでいいってどういうこと？わからないまま当日私を含め4人で出掛けました。

受付に行くと、米国から我々が代理で来るとの連絡が既にあって、名札もちゃんと用意されていて、大雑把な依頼のわりにきちんとされていることにびっくり。戸惑いながら会場に入ると、同時通訳のイヤホンを渡され、更にびっくり。外国人を含め30〜40人の大学教授のような人々が、熱心にイヤホンに耳を傾けています。何だか場違いな所に来たようで、帰りたい気分になりました。恐る恐る手渡された分厚い資料を見て、初めてこれは万博開催40周年記念事業「カルチャー・ミュージアム」第2回国際会議であると知りました。でもよくわかりません。ディアスポラ〔離散〕に見る文化融合、様々な国の民族衣装やファッションから伝統文化を理解し、そこに生きる人々の考え方や生活様式を知るといふものらしいのです。



米国GFSの接点はというと、2年前韓国で開催されたGFS世界大会（日本からもたくさん参加）の折、在米韓

国人で民博客員教授、エール大学教授・高全恵星女史と出会ったことがきっかけで、帰国後も深く関わり、指導を受け、メンバー達と韓国、ガーナ、アイルランドの民族衣装を作

子が映し出され、確かにGFSの活動をそこに見ることができました。出席するだけでよいとの約束でしたが一言求められ、GFSは世界に繋がるキリスト教のグループであるということ

大阪北部五教会男子会交流会

「ライフ・リバー」の夢と現状報告

〜畑野研太郎代表と共に、海外医療協力を考える〜

ペテロ 鈴木 憲二

大阪市内北部の5つの教会（川口基督教会、聖贖主教会、大阪聖ヨハネ教会、守口復活教会、大阪聖パウロ教会）の男子会が合同で恒例の交流会を開催した。

今年、9月19日（日）に当番教会の大阪聖パウロ教会を会場に5教会を中心に58人の方が参加した。講師には、昔屋聖マルコ教会信徒で、「ライフ・リバー」代表の畑野研太郎氏をお招きして、「ライフ・リバーの夢と現状報告」

興奮しました。今回思いがけない出来事でしたが、私たちの参加をとっても喜んで頂き、米国GFSの多彩な活動を知ることができ、GFSの国際性を改めて感じるよい機会が与えられました。（いとう のりこ 聖ルカ教会）

副作用の少ない資金協力をめざして」というテーマで講演をしていただいた。

日本キリスト教海外医療協力会（JOCIS）海外派遣ワーカー（医師）としてバンダラレイシユで働かれた経験や帰国後にバンダラレイシユの貧しい人々への医療費支援の働きのために創設された「ライフ・リバー」の活動について紹介された。

祈りの中、顔の見える支援を目標に、現在二カ所の施設、チャンドラゴーナ・キリスト教病院とマイメンシの障がい者コミュニティセンターと連携し奉仕活動を展開している。（すずき けんじ 尼崎聖ステパノ教会）

第121回祈りと証しの会 福田光宏司祭を迎えて

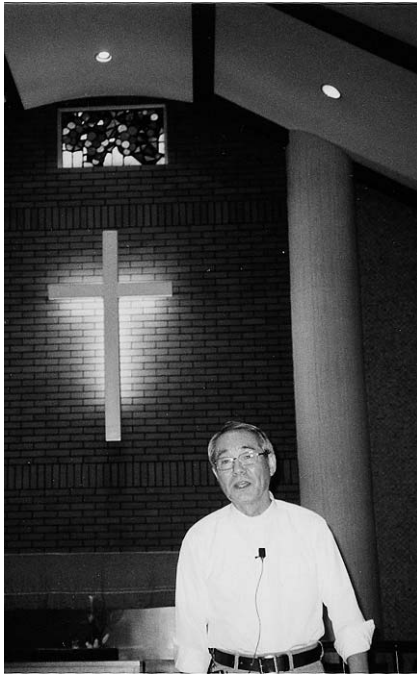
ペテロ 鈴木 憲二

第121回祈りと証しの会
は2010年9月11日(土)
午後6時から聖愛教会にて開
かれました。豊川雅章兄司会
のもと、聖歌の後、八尾恵三
兄の聖書朗読に続いて松岡慶
一司祭より、今回の証し人、
福田司祭の経歴を話されまし
た。松岡慶一司祭は同郷の長
崎のご出身であり、福田司祭
のお若い時代から現在に至る
までの道のりを紹介されまし
た。

以下は福田司祭の証しの内
容です。

※ ※ ※

私は旧満州で生まれました。母
親は自分が生まれて間もなく
亡くなった。6歳、8歳上の
姉が母親代わりとなって私を
育ててくれた。家の宗教は禅
宗であった。昭和21年に旧満
州から引き上げて来たが、父
親はたぶん、この子は死んで
つ、現在に至るまでには全
つ、福田司祭の生い立ちを伺い



証しをされる福田司祭

しまうだろうと思っていた。
私はとても体が弱かったから
である。しかし、引き上げて
くるなり元気な子どもになっ
た。

一人で行くには遠い聖公会
の教会であったので、日本基
督教団の教会に欠かさず通っ
た。小学生の時はじっとして
いない、いわゆる落ち着きの
ない子であったので、よく分
級の途中で牧師から首根っこ
をつかまれて外に放り出され
ていた。胸を患ったこともあ
ったが、お婆さんの日曜学校
の先生が見舞いにきてくれて、
病気は直ぐに治るよと言って
くれた。10カ月くらい経って
外出しても良いと言われたの
で、教会に行つてサムエルと
いう洗礼名にして欲しいと申
し出した。そして教父母は誰々
にして欲しいとも言った。

洗礼を受けてから自分自身
が変わった。もう、教会から
外に放り出されなくなった。
祖父や伯父も禅宗の檀家総代
であったが、キリスト教を目
指すことには反対されなかつ
た。

やがて大学に進もうとした
時に受験した大学はみんな落

ちてしまい、その中には立教
もあつた。大阪には行きたく
なかつたが、結果的に桃山学
院に行くことになった。在学
中、色々な方に「神学校に行
ったら」と言われたが、その
度にしつかりと拒絶した。

大学を卒業直前、就職のた
め長崎に帰つたが、何故か牧
師になりたいという気持ちが
強くなり、勇気を出して継母
にそのことを申し出た。最後
の難関と思われていた祖父か
らも「キリスト教もなかなか
良いものだ。頑張れ。」との
励ましを貰つた。

故柳原貞次郎主教の口利き
で柳原光司祭を頼りに神学院
へ進むこととなった。当時は
学費を宣教師からの援助によ
り賄われていたので、バージ
ニア出身の「ヘーレ宣教師」
を紹介された。また大阪聖愛
教会では、高校生が中心とな
つてお小遣いを出し合い、支
えてくれたことが大変な励み
になったものである。

神学院への入学が決まった
頃、大学の恩師が「あいつは
神学校に入ったって卒業は無
理だ。」と陰口された。神学
校では同期の仲間から「福さ

んは、この雰囲気とは合わ
ない。」と言われた。無事卒
業できたのが奇跡だと思つた。
「何時牧師を首になつても、
その時は神さまが別の道を用
意してくださるに違いない。」
との思いで40余年過ごしてき
たが、残り数カ月で定年退職
を迎えるとは、本当に奇跡と
しか言いようがない。

最後に現在に至るまで神様
と多くの人々の支えがあつて
今があることを強調されまし
た。席上献金44,261円
は神学生後援会のために捧げ
られました。

(すずき けんじ 尼崎聖ス
テパノ教会)

世界の窓

○エリザベス女王が
英国教会議会の就任
式を行った。

11月23日、エリザ
ベス女王とエジンバ
ラ公爵はウエストミ
ンスター宮殿の教務
館を訪れ、宗教議會

の就任式を行った。この議會
は5年間、英国国教会を治め
(次ページ最下段につづく)

プール学院大学教育60周年記念イギリス訪問

プール学院の源流を訪ねて

プール学院大学チャプレン 司祭 ペテロ 岩城 聡



ロンドンのホテル前で記念写真を

8月31日から9月7日まで、プール学院大学教育60周年（短大開学60周年）を記念して、22人のグループが英国を訪問した。主催はプール学院

院大学（キリスト教センター）および同大学同窓会のミツパ会で、構成メンバーは主としてプール学院短期大学の卒業生および大学関係者であった。60代の女性が多くおられ、密度の高いスケジュールであったが、全員元気ですべての日程をこなし、恵みに満たされて帰国した。

中には、クーパー司祭に英語を習った卒業生もいて、英語と日本語が入り乱れて、賑やかな会話が遅くまで続いた。

訪問団の大きな目的は、ウインチェスターにある初代学長エレノア・メアリー・フォス先生の墓前礼拝であった。

ウインチェスターの静かな丘にケルト十字架に囲まれてひっそりと眠るフォス先生の墓前で、師の姪御さんにあたるジャネット・バロウズ姉と共に、逝去者記念礼拝を献げることができたのは大きな喜びであった。

草創期のプール学院に大きな力を与えてくださったアーサー・ウイリアム・プール主教（なお、同師は若くして逝去されたため、日本での滞在期間は長いものではなかった）の墓前礼拝には、理事長、副学長と私のみが参加した。主教のご一家が葬られているお墓は、少し離れたシユルスベリーにあり、団から離れた3人はレンタカーでやっとのことでたどり着いた。

大きな目的をなし終えた団は、シエークスピアの故郷であるストラトフォード・アポーン・エイボンですてきなホテル、マナー・ホテルに逗留し、エイボン川のクルーズやシェイクスピアの『冬物語』の観劇を楽しんだ。古典英語の台詞はほとんど理解できなかったものの、ロイヤル・シェイクスピア劇団の演じるシェイクスピア劇はさすがに迫力満点であった。

その後、オクスフォード（ここでは、大学関係者はCMS本部を訪問）、カンタベリー、ロンドンを訪問し、聖公会の大聖堂や大学の雰囲気を感じることができた。

最終日、全員が王室のチャペルであるウエストミンスター・アビー（観光案内には、ウエストミンスター寺院と訳されている。アビーとは本来大修道院のことである）での頌詠聖餐式に参加する恵みに与った。クワイア席に通されたメンバーは大感激。聖歌隊のチャントを間近に聞きながら、陪餐に与った者、祝福に与った者、それぞれに豊かな神の恵みに与ることができた。また、団の一部は、セント・ポール（聖パウロ）大聖堂での頌詠晩禱（イーブンソング）にも参加した。

その後、オクスフォード（ここでは、大学関係者はCMS本部を訪問）、カンタベリー、ロンドンを訪問し、聖公会の大聖堂や大学の雰囲気を感じることができた。

最終日、全員が王室のチャペルであるウエストミンスター・アビー（観光案内には、ウエストミンスター寺院と訳されている。アビーとは本来大修道院のことである）での頌詠聖餐式に参加する恵みに与った。クワイア席に通されたメンバーは大感激。聖歌隊のチャントを間近に聞きながら、陪餐に与った者、祝福に与った者、それぞれに豊かな神の恵みに与ることができた。また、団の一部は、セント・ポール（聖パウロ）大聖堂での頌詠晩禱（イーブンソング）にも参加した。

その後、オクスフォード（ここでは、大学関係者はCMS本部を訪問）、カンタベリー、ロンドンを訪問し、聖公会の大聖堂や大学の雰囲気を感じることができた。

その後、オクスフォード（ここでは、大学関係者はCMS本部を訪問）、カンタベリー、ロンドンを訪問し、聖公会の大聖堂や大学の雰囲気を感じることができた。

（前ページよりつづく）

ることになる。女王は、この新しい議会に対し、「多くの問題や解決すべき事案が山積しているが適切な方法を検討し、宣教と牧会に専念して頂きたい」と述べた。53人の主教を含む484人の議員達の代表として、ローワン・ウイリアムズ大主教は、「我々は女王の知恵とご理解、また教会へのお心遣いを尊重致します」と返答し感謝の意を表した。

(Episcopal News Service November 23)

○米国聖公会総裁主教

米国聖公会キャサリン・シヨリ総裁主教が降臨節の説教をホームページ広報で発表している。その内容は、世界がこの世の暗闇に光と平和と癒しをもたらす救い主の到来を、待ち続けているというものである。また、ユタ州のソルトレークシティーに逃れたスーダンからの難民を例にあげ、彼らの国の治安回復と世界平和の必要性を強調している。

(Episcopal News Service November 22, 2010)



9月13日に関西空港をルフトハンザ機で出発、2日目の15日に南ドイツのオーバアマガウ村に入った。普段人口5,300人の小さな村が、受難劇開催期間の5月15日〜10月3日の168日間は10倍近くにふくれ上が



そうそうたる顔ぶれで、この旅が緊張と恐怖?の旅にならないことを願う、か弱き男2人だった。

9月16日よいよ観劇。受難劇場は客席が4,700席、我々の席は中央寄りの前から7〜14列の1等席に32人が分散した。昼の部は午後2時30分から同5時、間に休憩3時間が入って夜の部が同8時から10時半〜11時。劇はすべてオペラ形式で、イエス、聖人たちやピラトなどの独唱は歌唱力抜群(連日ダブルキャスト

10年に一度、南ドイツの村での「キリスト受難劇」を鑑賞して

森 英雄

り、土産品や木彫り工芸品など村の商店は大入りとなる。私たちは事前に旅行社から配られた受難劇の日本語の解説書と、部厚い英・独語の全台詞の本に目を通していった。

南ドイツで10年に一度、キリスト受難劇が開かれて、世界中から多くの人がこの鑑賞のために集まることは、かねてから聞いていたが、私はぜひ一度は参加したいと思っていた。

昨年、大阪教区内で鑑賞ツアーの企画があることを知り、昨秋申し込んだところ幸いに

もその一員に加えて頂いた。鑑賞旅行団のメンバーは、大阪教区の12教会23人、京都教区3教会4人、東京教区から1人、他教団から3人、その他1人の計32人で、驚いたことにこのうち男性は、聖トマスの長野泰信兄と私の2人だけで、他は全部レディ!

私たちは事前



ト制)、それに50人の混声合唱と40人の村人によるオーケストラなどよく練習されており、とても素人の村芝居とは思えないほど。役者の台詞は主にドイツ語で、時々ヘブライ語が入る。村人の約4割の2,000人が出演しており、子ども、群衆、兵士の役が、当時の衣装で生き生きと演技し、また、犬、羊、豚、鶏、馬、らくだも登場、人たちがドラマとすっきり融け合って、立派な役者であった。

で表現され、人形と思われたのは皆人間の演技によるものとわかり驚いた。最後の裁判の場の「キリストを十字架にかける」では、兵士と群衆役の役300人が実際に登場、その一斉の怒号は地響きするほどの迫力。そして、あの「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ」のイエスの最期の悲痛な叫びのクライマックスでは、観客は身を乗り出し拳を握りしめ息を凝らして視つめ、しばらく席を立てなかった。見終わって、私の敬愛する小池俊男主教(102歳)が30年前に観劇された時、号泣された訳がわかった。(もり ひでお 西宮聖ペテロ教会)

教 区 の 動 き

常置委員会報告

10月14日(第11回定例)

9月2日開催の第10回常置委員会議事録を確認した。

I. 主教報告

1. 現時点で決定している教区の行事、主教の予定が報告された。

・エルサレム・中東聖公会エルサレム教区主教スヘル・ダワーニ主教が来訪される。
11月22日：歓迎夕食会、23日：教区会開会礼拝にて説教

2. その他の報告

・11月3日：東京教区主教選挙が行われる。
・9月30日：井上進次執事が司祭志願書が提出された。

II. 教務局長報告

・教役者の退職に伴う退職一時金の算定を教役者養老厚生基金委員会に要請した。

として配布する。

IV. 協議事項

・神学生後援会の枠組みをどのようにするか昨年7月から、神学生後援会常任理事

会、聖職養成委員会、財務委員会、法制委員会の協力で検討してきた。成案を得ることができ、9月16日開催の神学生後援会理事会上において承認された。

・9月度教区一般会計報告がなされ、承認した。

III. その他の報告

1. ハラスメント防止・対応委員会報告
正式発足していない当該委員会第104(定期)教区会への報告は、常置委員会の活動なので、常置委員会報告に続いて報告する。

2. プレ宣教協議会分科会の報告
プレ宣教協議会実行委員会より分科会報告が送られてきた。教区礼拝で約束したように教区内関係者全員に印刷物

1. 教区会に関する案件

a 「日本聖公会大阪教区神学生助成金及び奨学金規程」制定の件

本件は、神学生後援会から教区に移される「神学生養成資金」の運用に関する規程を教区規則の中に制定しようとするものである。運用は常置委員会のもと聖職養成委員会によって担われることになる。

b 大阪教区慶弔見舞金規程改正の件

本件は既に2月16日開催の常置委員会で承認・改正されているので、第104(定期)教区会において常置委員会報告の中に含める。

11月11日(第12回定期)

10月14日開催の第11回常置委員会の議事録を確認した。

I. 主教報告

1. パウロ井上進次執事は、2011年2月22日(火)24日(木)の管区共通聖職試験を受験することにな

った、との報告を受けた。

2. 管区に関わる諸委員(2012年の定期総会まで)大阪教区関係分の報告を受けた。

・神学教理委員 岩城 聰司祭

・正義と平和委員 磯 晴久司祭

・ジェンダープロジェクト 岩城 聰司祭

・日韓協働プロジェクト 松原恵美子姉

・年金委員 呉 光現兄

・教区間協働担当デスク 原田光雄司祭

・エキュメニズム委員 大西 修主教

・第2回世界平和協議会実行委員 岩城 聰司祭

(2011年10月開催予定) 磯 晴久司祭

・管区共通聖職試験委員 岩城 聰司祭(教理)

・山本真司祭(宣教牧会)

・教理・礼拝・組織委員 山本 真司祭(教理)

・管区関連委員(管区の委員会) 内田 望司祭(礼拝)

・青年・磯 晴久司祭 正義と平和・鍋島守一司祭

人権・齊藤 壹司祭

日本聖書協会の新翻訳事業の検討委員に岩城 聰司祭が採用された。

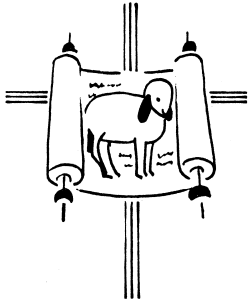
3. 2009年9月に大阪聖ヨハネ教会委員会からの要請を受け、1年に及ぶ協議・話し合いを続け、2010年8月5日に話し合いが終了したが、まだ解決すべき問題があるので「真の和解放が得られるように努力・協力したい旨」の書面を送った、との報告を受けた。

4. 東京教区主教選挙が11月3日に行われ、聖アンデレ教会牧師・司祭アンデレ大畑喜道師が選出されたとの報告を受けた。

II. 協議事項

1. 10月24日に聖職候補生志願書を提出した守口復活教会信徒義平雅夫さんの面接をした。審議の結果、聖職候補生志願者(教区神学生)としてウイリアムス神学館で学ぶことにする主教の方針に同意した。

2. 主教名で出す予定のプレ宣教協議会の分科会報告のリード文(案)を検討し、



決定した。
 3. 主教より、2011年4月1日付の人事案が紹介され、意見を求められた。まだ流動的な部分もあるが、基本的に主教の方針を支持した。 以上

祝受洗

川口基督教会 (10月17日)
 ルカ 森 昌彦
 シフラ 森 敦子
 デイビット 和田 俊秀
 サマンサ 和田優美子
 アンドリユー 松永 学
 リタ 松永亜希子
 バンデイオニア ヒューム亜紀子
 ゲネルギウス 中尾 光成

大阪聖アンデレ教会

タビタ 川村 汐璃 (10月24日)

大阪聖パウロ教会

リディア 林 良子 (11月7日)
 ガラシヤ 柳生知須子

祝受按

川口基督教会 (10月17日)
 ルカ 森 昌彦
 シフラ 森 敦子
 デイビット 和田 俊秀
 サマンサ 和田優美子
 アンドリユー 松永 学
 リタ 松永亜希子
 バンデイオニア ヒューム亜紀子

堺聖テモテ教会

ルツ 高橋 好子 (11月7日)

魂の平安を祈ります

トであった。「CD」「DVD」(2000円)も評判がよく、次々と売れている。

川口基督教会

ドルカス 菅井カズ子 (9月23日・89歳)

大阪聖アンデレ教会

マーガレット 津田 みち (9月29日・97歳)

守口復活教会

パウロ 松田 雄二 (11月14日・66歳)

庄内キリスト教会

スザンナ 岩田 セイ (11月16日・88歳)

教会・施設の動き

高槻聖マリヤ教会

○10月17日(日)に「地域宣教」の一環として例年行なっている「チャペルコンサート」を開催した。今年は「ルナ・パロック弦楽合奏団」の演奏と、高槻聖マリヤ教会聖歌隊も加わったのコンサ

大阪聖アンデレ教会

○10月2日(土)〜3日(日)、1泊で恒例の男子会修養会を開催。13名参加。長浜市木之本の己高庵に宿泊し、彦根聖愛教会の主日礼拝に出席して、交わりの時を持った。旧礼拝堂スミス記念館には、一同心をひきつけられた。

東豊中聖ミカエル教会

○10月30日(土)、聖ミカエル保育園では地域子育て支援事業として「ミカエル・ミカエラ」を実施しました。年に3回の企画ですが、今回は教会員も参加して、キー付コーヒー、本場台湾ビーフン、それにミニバザーを行い、大変好評でした。園からはカレライスが無料で開催の舞われ、卒業した親子約100名以上が参加。礼拝堂での礼拝から始まり、綿菓子を始めいろいろなイベントのラリーがありました。

堺聖テモテ教会

○11月28日(日)に、平安女学院大学名誉教授の工藤信夫氏を講師として、『うつ病と向き合う』を開催しました。

聖ルシヤ教会

○教会の入り口と道路沿いの2カ所に看板を設置しました。きれいな仕上がりで、通り行く多くの皆さんに教会の存在を知らせることができると思います。主に感謝。

西宮聖ペテロ教会

○11月7日(日)午前11時30分、奥司祭のお祈りの後、恒例のペテロ・バザーが開かれました。快晴に恵まれ、教会内外や周辺の方で各店は満員の盛況。また聖堂では、パイプオルガン演奏によるミニコンサートとミニ写真展も公開、よき交わりのフェスティバルとなりました。

石橋聖トマス教会

○11月14日(日) 聖餐式後、教会建て替えのためのミニバザーとワンコインコンサートを開催。ミニバザーは

教区関係教役者
逝去者記念聖餐式

◇1月12日(水) 11:00～

於:主教座聖堂(川口基督教会)

説教者 福田光宏司祭

- 1日 宣教師 ヘンリー・ラニング (1917 米)
- 司 祭 デイビッド・マーシャル・ラング (1946 英)
- 司 祭 ウイリアム・ロイストン・グレイ (1950 英)
- 3日 主 教 ウイリアム・オードリー (1910 英)
- 司 祭 河合 堯三 (1939)
- 12日 司 祭 ヨセフ 側垣 基雄 (1965)
- 司 祭 ギデオン 小川 博司 (2002)
- 13日 伝道師 三木 八十五郎 (1918)
- 15日 司 祭 パーシー・A・スミス (1960 米)
- 伝道師 寺本 房吉 (1960)
- 19日 司 祭 ペテロ 宇野 秀太郎 (1944)
- 主 教 アーサー・リー (1958 英)
- 伝道師 今泉 颯子 (1970)
- 20日 司 祭 ヒカル 柳原 光 (1994)
- 21日 司 祭 久永 光雄 (1937)
- 22日 主 教 ペテロ 松本 寛一 (1980)
- 25日 執 事 卜部 徳太郎 (1933)
- 30日 執 事 バルナバ 寺沢 久吉 (1945)
- ?日 司 祭 山下 有任 (1903)

◇2月9日(水) 11:00～

於:主教座聖堂(川口基督教会)

説教者 山野上素充司祭

- 1日 宣教師 エルザ・M・キーン (1949 英)
- 3日 司 祭 トマス 佐藤 時雄 (1989)
- 5日 司 祭 バークレー・フォーウェル・バクストン (1946 英)
- 8日 宣教師 フランシス・エドワード・ハモンド (1932 英)
- 10日 司 祭 祖山 達三 (1941)
- 司 祭 皆川 晃雄 (1952)
- 宣教師 フローレンス・マリアン・ファジル (1956 英)
- 13日 伝道師 マリア 奥田 ヤス子 (1949)
- 14日 司 祭 J・ハミルトン・クインビー (1882 米)
- 16日 司 祭 ステパノ 久保 登知雄 (1981)
- 17日 司 祭 ジョージ・ヘンリー・ポール 1929 英)
- 19日 伝道師 小橋 かつえ (1964)
- 20日 司 祭 ヨセフ 松岡 安立 (1972)

*教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前 11 時から、川口基督教会で行われます。ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。



尼崎聖ステパノ教会

○10月31日12時よりバザールが開かれました。昨年に続き今年も雨天の中で開催されました。それでも近隣

内々のバザールでしたが、婦人会を中心に、男子会やボーイスカウト関係者も参画して、実り豊かな手作りバザールとなりました。川口基督教会から聖トマスの建て替えるのたためにと寄せられたステンドグラスの破片で作

られた作品も販売されました。ワンコインコンサートは青年有志の企画で、近隣の方々も多数来会下さるステキなフルート・クラリネット・ピアノによる演奏会となりました。

お詫びと訂正

4頁15号
2頁「大阪教区 教区礼拝」の記事中、3段目10行目「トーチには井上岳君・井

の方にも来訪して頂き、予定していた恵みを与えられました。おでん、ギョーザ、たこ焼き、カレー、ラーメン、ケーキ、赤飯、雑貨に手作り品とみんなで楽しい交わりの時でした。

上光君(西宮聖ペテロ)は「トーチには井上岳君・井上光君(芦屋聖マルコ)」の間違いでした。
16頁 教区関係教役者 逝去者記念聖餐式 12月分
4日 司祭 テモテ 山本 登(2009)が抜けておりました。
また「説教者 田宮紘司祭」を「説教者 田宮紘執事」に訂正いたします。
謹んでお詫び申し上げます。

編集後記

このように大阪教区報第416号「クリスマス号」を発行できますことを心から感謝申し上げます。
原稿をお寄せくださいました皆様、そして広報委員としてご奉仕くださいました皆様、に感謝致します。
心豊かなクリスマスとなりますように。
司祭 アンデレ 磯 晴久 広報委員会